

# 牛床の工夫により健康と 生産性の向上を両立し 高生産を維持

牛群を規模拡大した後、通常は乳生産の増加を期待した飼養管理を行って  
いくが、その反面、牛の個体管理が難しくなり、健康管理上の問題が発生  
する場合がある。今回は、牛群の生産成績と健康管理両面の向上を常に考  
えながら、将来を見据えた先進的な経営を行っている生産者を紹介する。

## 400頭を飼養し

### 高い生産成績を維持

現在の飼養規模は経産牛400頭（内搾乳頭数300頭）、フリーバーン牛舎で管理している。後継育成牛は、自家育成と外部導入。飼料は自家TMR給与で、濃厚飼料以外に自給粗飼料アルファルファ、スーダン、フェスクを使用。また、搾乳施設は32頭のロータリーパーラーを使用し、1日3回搾乳を行う。直近1年間の経産牛1頭当たりの平均乳量は32・5kg前後、乳脂肪3・90%

と非常に安定している。

### 糞尿処理量と

### 臭気の低減対策を実施

100頭規模のフリーバーン牛舎から現行規模へ拡大後、増加した糞尿処理と臭気対策に悩んだという。通常のフリーバーンでは、汚れた糞尿部分を取り除き、牛床へ新鮮なオガ粉を追加する管理方法が一般的である。

前述の課題解決のため、当農場では、糞尿処理量と臭気の低減を目的に、独自に牛床を15〜20cm程度攪拌

することを平成19年秋から開始。牛床の縁部分の角度をつけないことで、牛床部分に牛を確実に休息させる管理を行っている。また、当農場では牛床部分へのアクセスの確保と、十分な堆肥場を確保できているという状況から、牛床部分での堆肥化量は少なくともよいとの判断で、コンポストバーンのような仕切壁は設置していない。

農場主によると、「牛床部分の水分調整が最も難しい点ではあるものの、現在はいまよく発酵状態を保っている（温度は50℃前後）。この管理方法に変更してから、牛の汚れが少ない、牛がゆったりと横臥する、蹄への負担がなくなり牛の寝起きが改善した、堆肥が減った」などのメリットを確認しているという。

### 先を見据えた先行投資と バランス感覚が重要

管理方法を変更して以来、牛の疾病も少なく、獣医を呼ぶことはほとんどなくなつた。農場主は、「大規模化に当たり、何かを最優先ではなく、さまざまな視点から物事を判断するようになった。農場経営という観点からは、乳生産を増加させつつ繁殖成績も維持・改善させ、牛を健康に管理し事故を低減させるといったバランス感覚が非常に重要なこと」とのこと。また、「牛床管理、飼料メニュー、牛群管理をしつかり行う、悪い方向に向かわないためにどうするかを常に考えていくことが大切で、先を見据えた先行投資と回収が基本になる」と語ってくれた。

#### DATA 事業規模

所在地：四国地方

飼養頭数：搾乳牛300頭

（経産牛400頭）

従業員数：14人

## 安定成績を生み出す飼養環境



牛舎の屋根も高く、牛もゆったりと横臥している



新鮮で十分な量の飲水



32頭収容のロータリーパーラー

## 牛床の管理



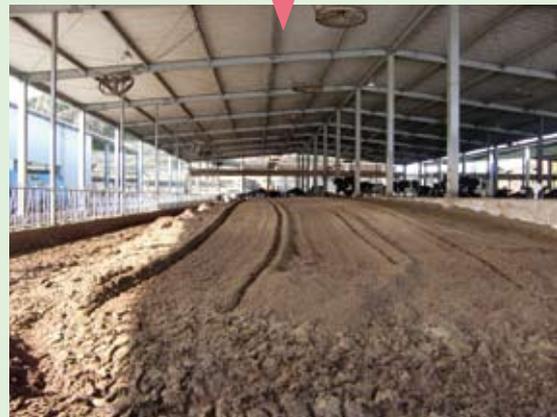
牛床の形



牛床攪拌前



攪拌中の様子



攪拌後

### 農場の直近の成績

	平成 18 年	平成 19 年	平成 20 年	平成 21 年
乳量 (kg / 年)	7,629	7,507	9,775	9,760
乳脂肪 (%)	3.80	3.69	3.79	3.85
乳タンパク質 (%)	3.33	3.35	3.40	3.31
体細胞数 (千)	250	250	233	260

### Point!

この方法は、コンポストバンの概念と同じく、①牛床攪拌による酸素供給を行うことで、牛床部分は好気性発酵により堆肥化される、②牛床部分はクッション性に富み、牛の蹄への負担が軽減される、などのメリットがある